

III ハインリヒ・シュツツ合唱団・東京 創立50周年記念演奏会

—シュツツ音楽の華—

2018

9.21 金

19:00開演
(18:30開場)

東京カテドラル聖マリア大聖堂

St.Mary's Cathedral Tokyo
(文京区関口3丁目・椿山荘前)

全席自由

¥4,000(一般) ¥2,500(学生)

Also hat Gott die Welt geliebt, daß er seinen eingeborenen Sohn gab.
Heinrich Schütz

1. ダヴィデの詩編

Die mit Tränen säen SWV378

涙とともに種蒔く者は

Herr, auf dich trau ich SWV377

主よ、我なんじにより頼む

2. ソロモンの雅歌

Ego dormio et cor meum vigilat SWV63

我眠りたれども心は醒めて

Vulnerasti cor meum SWV64

なんじは我が心を奪えり

3. ダヴィデの詩編

Ich hebe meine Augen auf SWV31

我山に向かいて目を上ぐ

4. イザヤの預言

Ein Kind ist uns geboren SWV384

ひとりの嬰兒われらのために生まれたり

Zion spricht: Der Herr hat mich verlassen SWV46

シオンは言えり「主、われを捨てたまえり」と

5. マリアの賛歌

Meine Seele erhebt den Herren《Deutsches Magnificat》 SWV494

わが魂は主を崇め《ドイツ語・マニフィカト》

6. マリア、ヨセフと少年イエスの会話

Mein Sohn, warum hast du uns das getan SWV401

児よ、何故かかる事を我らに為しそ

この世を愛する神はその独り子を賜ふほどに
指揮 淡淡野太郎
給へり子を賜ふほどに

H.シュツツ

ハインリヒ・シュツツ合唱団・東京
アンサンブル・サギタリウス
ムシカ・ポエティカ古楽アンサンブル



Heinrich Schütz
(1585- 1672)

Welt geliebt, daß
er seinen eingeborenen Sohn gab.
Johannes 3:16

7. イエスの言葉

Sehet an den Feigenbaum SWV394

無花果の樹を見よ

8. 復活のイエスとマグダラのマリアの対話

Weib, was weinst du?《Dialogo Per la Pascua》 SWV443

おんなよ、何ぞ泣くか?《復活のディアローグ》

9. イエスの言葉

Ich bin ein rechter Weinstock SWV389

私は眞の葡萄の樹

Saul, Saul, was verfolgst du mich? SWV415

サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか?

10. パウロの言葉

Das ist je gewißlich wahr SWV388

そは信すべく正しく受くべき言葉なり

11. ダヴィデの賛歌

Danket dem Herren SWV45

主に感謝せよ

12. イエスの言葉

Also hat Gott die Welt geliebt SWV380

神はその独り子を賜ふほどにこの世を愛し給えり

ハインリヒ・シュツツ合唱団・東京

現役 | ソoprano ■ 今村 ゆかり / 川田 純子 / 阪本 恭子 / 柴田 圭子 / 武井 紀子
 ■ 畠 瑞子 / 玉井 千恵 / 山田 みどり / 大和 美信
 ■ 秋山 百合子 / 有江 千晶 / 石塚 瑠美子 / 影山 照子
 ■ 小西 久美子 / 佐藤 道子 / 中村 光子 / 松井 美奈子
 ■ 淡野 太郎 / 武藤 和明 / 依田 卓
 ■ 阪本 一郎 / 中村 誠一 / 小家 一彦

O | B | O | G | ソoprano ■ 古武 沙織 / 齊藤 嫩子 / 島崎 伸子 / 中川 晶子 / 細川 好子
 ■ 市瀬 寿子 / 清瀬 雅子 / デヴィット 真子 / 松本 のり子
 ■ 海老原 直秀 / 細川 裕介 / 山口 健三
 ■ 石塚 正 / 駒井 義明 / 齊藤 あすさ

アンサンブル・サギタリウス & 器楽奏者

ソoprano ■ 大石 すみ子 / 柴田 圭子 / 今村 ゆかり
 ■ 有江 千晶 / 淡野 弓子 / 依田 卓
 ■ 及川 豊 / 淡野 太郎
 ■ 浦野 智行 / 中川 郁太郎
 ■ 中村 孝志 / 上倉 武 / ツインク ■ 細川 大介
 ■ 鈴木 力
 ■ 萩谷 克己 / 宮下 宣子 / 卷島 俊明 / 生稻 雅威
 ■ 淡野 太郎
 ■ 石川 和彦 / 奥村 琳
 ■ 西澤 央子
 ■ 武久 源造
 ■ 山口 真理子
 ■ バルダキン・オルガン
 ■ ふいで手: 山口 真理子

ムシカ・ポエティカ音楽実践講座修了生

ソoprano ■ 有江 瑞枝 / 大垣 ひで美 / 門倉 春子 / 田代 田鶴子 / 治武 好江 / 三熊 律子
 ■ 稲垣 麻美 / 三觜 美和 / 水井 治子
 ■ 山村 道男

マネジメント / チケット予約 ■ 菊田音楽事務所 T&F 042-394-0543

主催 ■ ムシカ・ポエティカ TEL 03-3998-8162 <http://www.musicapoetica.jp>

およそ500曲のシュツツ作品のなかから厳選の16曲をお届け致します。

前半は旧約聖書のダヴィデ、ソロモン、イザヤらの口を通して、人々がどれほど救い主を待ち望んだかを歌い、後半は新約聖書から、イエスを身ごもったマリアの喜びの賛美、少年イエスのある日、イエスの語った預言と教え、さらにダマスコへの道でサウロの聴いたイエスの声、そのサウロ(のちのパウロ)が確信し、キリスト・イエスを証言した言葉へと進みます。最後に再びダヴィデ詩編136による主への感謝と、50年前の創立時より今に至るまで私たちの活動の根幹を支えてくれた《神はその独り子を賜ふほどにこの世を愛し給へり》を当日の演奏者全員で歌います。どうしても聴いて戴きたい曲を選んだ末に私たちが見たもの、それは「イエス」その人がありました。そしてシュツツもまた生涯を通じて「イエス」を求めた作曲家であったということ改めて知らされたのでした。

今回の特筆事項はシュツツのコンサートに初めて登場するバルダキン(天蓋付き)・オルガンです。北イタリア南チロルのクールブルク城に残されているルネサンス様式のふいご付きポジティーフ・オルガンをモデルに、わが国のオルガン・ビルダー中西光彦氏によって製作されたもので、当時はG.ガブリエリ、M.プレトーリウスらが好んで用いた楽器でした。力強いうえに麗しい音色で、弾き手の思いがストレートに伝わり、シュツツの音楽にはうってつけの楽器と思います。

合唱ではシュツツ合唱団現役の演奏に加えOB、OGメンバー、ムシカ・ポエティカ音楽実践講座の修了生が幾つかの作品を共に歌います。更にソロ・アンサンブルを担う「アンサンブル・サギタリウス」、長年に亘って器楽パートを支えて下さっている「ムシカ・ポエティカ古楽アンサンブル」の方々とも、数々の忘れ難い思い出と共に再び共演の機会が巡ってまいりました。特に1980年初頭、藝大で教えておられたアロイス・バンブーラ教授が当時の東独ドレスデンへ帰国される際、「シュツツ合唱団のために」と置いて下さった狭管のバロック・トロンボーン(サックバット)は今回の演奏にも登場します。

ア・カペラに始まりソロ、器楽を含む大掛かりなコンチェルトまで、シュツツの音楽が彩り豊かに響き渡ることを願い、皆様のご参会を心よりお待ち申し上げております。

言い尽くせぬ感謝のうちに 2018年初夏

ムシカ・ポエティカ代表/ハインリヒ・シュツツ合唱団・東京主宰 淡野 弓子

及川 豊 Yutaka Oikawa

盛岡市出身。岩手大学教育学部及び東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業。バロック初期から古典派までの宗教曲を得意とするテノール歌手であり、グレゴリオ聖歌・ルネサンス音楽も含めた少人数でのアンサンブル歌手としても活躍している。2014年にはシューマン《詩人の恋》を演奏、2016年から〈シューマンに恋して〉と題するリサイタルを毎年行なっている。声楽を佐々木正利、鈴木寛一の各氏に師事。ヴォーカルアンサンブル・カペラ、ベアータ・ムジカ・トキエンシス各メンバー。聖グレゴリオの家宗教音楽研究所合唱講師。

テノール

浦野 智行 Chiyuki Urano

バス

東京藝術大学ではじめホルンを専攻、後に声楽に転向。日本音楽コンクール、奏楽堂日本歌曲コンクールなど、数多くの入賞歴を持つ。透明かつ柔らかい声と透徹したテクスト解釈で安定した歌唱を見せており。オペラ、オラトリオの分野で活躍する一方、歌曲にも力を注ぎ、特にロシア歌曲の歌唱、解釈では高い評価を得ている。バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして活躍中。2004年発売のCD「トルstoiのワルツ—ロシア文豪の音楽—」(キングレコード)に歌曲で参加、音楽誌上で好評を得る。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

中川 郁太郎 Ikutaro Nakagawa

バス

東京藝術大学大学院独唱科修了。藝大定期ハイドン《天地創造》(M.アンドレーエ指揮)でデビュー。その後ドイツに留学し、ハレ教会音楽大学に学ぶ傍ら、ライブツィヒでP.シュライアーハー、H. Ch. ポルスター氏等に師事。帰国後、多数の宗教曲のソリスト・指揮者として活躍。現在は立教大学大学院キリスト教学研究科博士課程後期課程で教会音楽をさらに研究している。K.M.C.合唱団、混声合唱団コルス・クビクルム東京各指揮者。東京室内歌劇場会員。東北学院大学宗教音楽研究所特任准教授。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

武久 源造 Genzoh Takehisa

バルダキン・オルガン

1984年東京藝術大学大学院音楽研究科修了。チェンバロ、ピアノ、オルガンを中心に各種鍵盤楽器を駆使して中世から現代まで幅広いジャンルにわたり様々なレパートリーを持つ。91年よりプロデュースも含め30数作品のCDをALM RECORDSよりリリース。中でも「鍵盤音楽の領域」(Vol.1~9)、チェンバロによる「ゴルトベルク変奏曲」、オルガン作品集「最愛のイエスよ」、「バルダキン・オルガンの世界」ほか多数の作品が「レコード芸術」誌の特選盤となる快挙を成し遂げている。著書「新しい人は新しい音楽をする」(アルク出版企画・2002年)。1998~2010年3月フェリス女学院大学音楽学部及び同大学院講師。

淡野 太郎 Taro Tanno

指揮/テノール/バリトン

東京都立芸術高校を経て東京藝術大学卒業。声楽を岡崎實俊、佐々木正利、嶺貞子の諸氏に師事。1997年渡欧。A.ギーベル、C.モラーヌ、Z.ファンダステーネ、H.ポルスター各氏に師事。ヘアフォルト教会音楽大学に学び、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス室内合唱団メンバーとして活動。2007年帰国後より指揮活動を本格化させ、宗教曲を中心に数多くの作品を指揮、好評を博す。ハインリヒ・シュツツ合唱団・東京 常任指揮者。ユビキタス・バッハ、メンデルスゾーン・コーラ各指揮者。ドイツ歌曲研究会「ノイエ・クレンゲ」代表。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

淡野 弓子 Yumiko Tanno

指揮

東京藝術大学声楽科卒業。1964年ドイツ・ヘアフォルト教会音楽大学に留学。W.エーマンの許で合唱指揮を学び帰国。1968年「ハインリヒ・シュツツ合唱団・東京」を設立し2008年までの40年間、常任指揮者として活動。1984年、音楽グループ「ムシカ・ポエティカ(音楽詩学)」を組織し内外の優れた音楽家の助力のもと多くの主要合唱作品を紹介。2008年より主軸を声楽に移し活動。CD「H.シュツツの音楽」Vol.1-4他。著書:平凡社新書『バッハの秘密』。『ハインリヒ・シュツツ合唱団・東京』主宰。活水学院宗教音楽研究所研究員。「ムシカ・ポエティカ」代表。

ハインリヒ・シュツツ合唱団・東京 Heinrich-Schütz-Chor Tokyo

1968年4月東京に発足。淡野弓子、故H.J.コロロイター、故鈴木仁、淡野太郎らの指揮のもとに公演を続け日本を代表する合唱団の一つとして内外の信頼を寄せられている。2001年シュツツ全作品およそ500曲の演奏を達成。2008年創立40周年を機に淡野太郎が常任指揮者に就任。彼の指揮によるR.マウエルスペルガー《ルカ受難曲》は毎日新聞紙上で高い評価を受け、2013年度の優れた演奏の1つとして記録されている他、『音楽之友』誌「39人の音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン2015」では谷戸基岩氏によって2015年11月演奏の柴田南雄《無限曠野》が1位に選ばれた。シュツツ合唱団は2017年9月、第6回目となる渡独公演をブラウンシュヴァイク、ベルリン、エアフルトの3都市で成功裏に終え帰国。2018年には創立50周年を記念する4回のコンサートが企画され、1月にはハイドン《天地創造》を、3月にはシュツツ《マタイ受難曲》を演奏し好評を博す。



本公司に登場のバルダキン・オルガン
(写真手前)

撮影:フィリア美術館

ムシカ・ポエティカ 2018 夏~秋

Musica poetica 2018

7月27日(金)午後7時

ゆめりあホール(西武池袋線・大泉学園駅)

デュオ・うめもも〈夜と夢〉

ピアノ■梅谷 初

ソプラノ■淡野桃子

11月9日(金)午後7時

創立50周年記念 IV

武蔵野市民文化会館小ホール

〈レクイエムの集い〉シュツツ《音楽による葬送》フォーレ《レクイエム》

オルガン■椎名雄一郎

合唱■ハインリヒ・シュツツ合唱団・東京

指揮■淡野弓子/淡野太郎